

読書新聞

2011年(平成23年)
5月22日 曜日

介護が必要になり、旅行をあきらめる高齢者は少なくない。しかし、介助付き旅行を扱う旅行会社や、ボランティアを仲介するNPOもある。サービスや費用を知り、上手に活用すれば、旅や外出の可能性が広がらそう。

読み得 医療&介護

「車いす生活になって旅行なんて無理だと思っただけで、みんなの手を借りて孫に空へ、温泉にも入らせて良かった」
こう話すのは、東京都内のA子さん(77)。以前は公務員の長男(50)と同居していたが、手足の筋力が急速に弱まり、昨春から介護施設で暮らす。
そんなA子さんと長男は1月、長女(51)家族が住む北海道へ3泊4日で旅行し、長女夫婦や3人の孫にも楽しんで。温泉を祝ってもらい、長男が相談をしたのは介護旅行専門会社「SPI あ・える倶楽部」(東京)。依頼者の希望に応じた旅行計画を練り、ホームヘルパー2級以上の資格を持つ「トラベルパー」が同行介助する。同行ヘルパーは移動の補助のほか、トイレや入浴の介助も行う。旅先の段差のない施設など、リアフリー情報も調べる。介護費用は、介護度によって異なり、A子さんのように

介助頼んで旅に出る



トラベルパーも同行し北海道旅行を楽しんだA子さんと長男(今年1月、札幌市で)

うに要介護3以上の場合、1泊2万6250円。このほか、同行ヘルパーの交通費や宿泊費などがかかる。北海道旅行では、同行ヘルパーに夜間同室介護も依頼。車いすで乗り降りできる介護タクシーも利用し、総額は約60万円(別表参照)だった。「人件費などがかかるが、行きたい場所に行き、会いたい人に会う意味は大きい」と長男。その後、も介護施設からの一時帰宅の際などに利用している。

◆**介護旅行の注意点**
※日本トラベルヘルパー協会 篠塚恭一理事長より
・旅行計画には余裕を
・ヘルプフリー情報は電話で確認
・交通運賃など障害者割引の確認を



介護旅行の情報収集に役立つサイト

- ◆ **ほぼネット** (<http://www.hohonet.info/>) は、ジャパン・トラベルボランティア・ネットワークなどが作成。要介護者や障害者の旅行に役立つ情報を紹介している。
- ◆ **JR東日本** (お身体の不自由なお客さまへ) (<http://www.jreast.co.jp/equipment/>)
- ◆ **SP I あ・える倶楽部**
(☎03・6415・6480)
- ◆ **クラブツアーリズム・バリアフリー旅行センター** (☎03・5323・6915)
- ◆ **ジャパン・トラベルボランティアネットワーク** (☎042・372・8501)

* 団体バスツアー一括う会社も

また、NPO法人「ジャNPO法人」日本トラベルの案内人材を養成、検定する2006年、独自に介護旅

き「会いたい人に会う意味」と話す。福社人材を活用すれば、も表は「介護旅行は、地域の依頼を受ける。篠塚恭一代り6000〜1万1000円飛行機・新幹線利用で同バスツアー1で1日当た

介助付きの団体旅行を扱った「高齢者の日常生活に関する意識調査」では、普段の生活での楽しみに32%が「旅行」を挙げる。介護旅行と言っても、本格的な介助を求める人から、バリアフリー情報があればよい

◆A子さん一家北海道旅行の費用	総額約60万円
介護費用(要介護3以上2万6250円×4日)	10万5000円
夜間同室介護費用(6300円×3日)	1万8900円
介護者賠償責任保険、旅行傷害保険など	約1万4000円
介護タクシー一代(東京、北海道計3日分)	約8万円
往復航空運賃、ホテル/バリアフリー/公宿泊費3泊(3人分=家族2人+ヘルパー1人)、介護旅行手配料	約38万円

A子さんに同行したのもこのトラベルパーだ。利用者によっては、移動は個人で行い、旅先で入浴介助だけ依頼する場合もある。

1タ1が対応する十数人の規模のツアーを企画する。首都圏日帰りから海外旅行まで、季節ごとに約50商品を用意。費用は、介助に応じ、人混みや段差が不利なバスツアーは、ボランティアに専念するとい

内閣府が2009年に行った「高齢者の日常生活に関する意識調査」では、普段の生活での楽しみに32%が「旅行」を挙げる。介護旅行と言っても、本格的な介助を求める人から、バリアフリー情報があればよい

人まで、程度はさまざま。同法人のおおぞまき理事長は「情報を集めたうえで、介助を頼む場合は、自分が何かできず、回してほしいから、ツアーの一部を負いか、整理して伝えた方がよい」とアドバイスする。